

報告日 令和7年10月29日
報告回次 1回目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	一般社団法人沖縄県情報産業協会			代表者名	会長 天久 進
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	事務局	連絡先電話番号	098-943-4641
担当者役職	事務局次長	担当者氏名	渡真利 哲	連絡先E-mail	
住所	903-0213 沖縄県西原町千原1番地				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	沖縄県	連絡先部署	企画部 デジタル社会推進課
担当者氏名	田村 徹	連絡先電話番号	098-917-0755

1-3. 支援を求める内容

支援方法	トップセミナー	事業名	DX推進
概要	DX推進における取り組み事例などをご講演頂く		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成）		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年10月22日	講演（実地）	14時00分	16時00分	
				活動時間（分）	120
2-2. 派遣場所	会場名	沖縄産業支援センター展示場		最寄駅	旭橋駅
	所在地	那覇市字小禄1831番地1		最寄駅からの交通手段	徒歩

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	渡邊 貴史
評価	大変良い
上記評価の理由 (どのようなところがよかったです等詳細に)	講師の方々は、全国や自治体・企業の最新DX推進や生成AI活用の動向、実践的な事例やノウハウを分かりやすく紹介し、参加者が自組織の課題解決や新たなアクションプラン策定に役立つ具体的な知見を提供してくださったほか、質疑応答や交流を通じて現場の課題にも丁寧に対応され、非常に有意義な機会を創出していただきました。
アドバイザーへの要望事項	当日の講演会参加者からも好評の意を頂戴いたしました。今回の件に限らず今後とも継続的な取り組みとして、沖縄県内の自治体DXにともに取り組んでいきたいと考えております。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】			合計人数	116人
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
		人数	14	0	36

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	沖縄県をはじめとする自治体や地域企業においては、DX（デジタルトランスフォーメーション）や生成AIの活用が急務とされている一方で、以下のような課題・問題点が顕在化しています。まず、全国的なDX推進の流れに対し、地域ごとの情報格差やノウハウ不足が依然として存在し、先進事例や最新技術の具体的な導入方法が十分に共有されていない現状があります。また、行政・業務の効率化や住民サービス向上を目指す中で、現場レベルでの実践的な知見や成功事例が不足しており、組織内の意識改革や人材育成も十分に進んでいません。さらに、生成AIなどの先端技術を活用した地域課題の解決に向けては、技術的な知見や導入ノウハウの不足、外部専門家との連携機会の限定、そして継続的な情報収集・ネットワーク構築の難しさが課題となっています。これらの課題を解決し、地域に根ざしたDX推進やAI活用を実現するためには、外部アドバイザーによる最新動向や実践事例の共有、現場に即した支援が不可欠となっています。
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	現状の課題を解決するために講演会を企画し、講師の支援を受けることで、全国や地域の先進事例や最新のDX・生成AI活用ノウハウを直接学び、自治体や企業が自組織の課題に即した具体的なアクションプランを策定できるようにするとともに、現場での実践力や意識改革を促進し、さらに専門家や参加者同士のネットワーク強化を通じて、地域全体のDX推進とAI活用の底上げを目指すことです。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	講師（アドバイザー）から受けた支援内容は、生成AI活用の生み出された背景、最新動向や利用時の留意事項などのノウハウ提供を頂きました。これにより、参加者は現場で役立つ知見や実践例を直接学び、自組織でのDXやAI活用の具体的なイメージやアクションプランを描くための支援を受けました。 ※「4-1. 支援を受けた対象者」について補足 その他にある66名については、オンライン参加者を示しております。
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	講師からの支援を受けたことで、参加者は全国や地域の先進的なDX推進や生成AI活用の具体的な事例やノウハウを学び、自組織の課題に即したアクションプランの策定や、業務効率化・住民サービス向上に向けた新たな取り組みを開始する切っ掛け・後押ししができたものと思料しています。また、講演会の参加者とのネットワーク強化を通じて、継続的な情報収集や連携体制の構築といった点においても期待が得られました。
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 本取り組みは講演会を通じた、意識向上・気づきの機会といった点を目的としており、具体的な成果物について定義できるものはございません。一方でアンケート結果から好評であったとの意見を確認できており、前述のとおり参加者への後押しに繋がったものと思料しております。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	講演会や講師の支援を通じて多くの知見やノウハウが得られた一方で、現場への定着や人材育成、組織全体への意識改革の浸透、技術導入に伴う予算やリソースの確保、継続的な外部支援体制の構築といった課題は依然として残されており、今後も継続的な取り組みが必要です。
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 別途、Pdf「地域情報化委員会 2025年度講演会アンケート結果.pdf」を添付します。
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい ③現段階では課題・問題が残っているため未定 今後の計画としては、講演会で得た知見やネットワークを活かし、現場での実践や人材育成を継続的に推進するとともに、組織全体への意識改革や技術導入に向けた予算・リソースの確保、さらに外部専門家や他団体との連携体制の強化を着実に進めていくことが必要であると認識致しました。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	この取り組みにより期待される最終的な目指す姿は、地域や組織全体でDXや生成AIの活用が定着し、業務効率化や住民サービスの質的向上、さらには地域課題の解決と持続的なイノベーションが自律的に生まれる、先進的かつ活力ある社会の実現です。

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 ○掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good_practices/past_year_all_houkoku/

なお「その他」を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

